

大雨が降ってきた!地震が起こった!どうする?

気象情報に注意する

・テレビやラジオ、電話(177)、インターネットなどを利用して、気象庁から発表される警報・注意報などの情報に注意しましょう。

大雨が降ったとき

むやみに外出しない

- ・台風が接近しているときや豪雨の時は、外出しないようにしましょう。
- ・やむを得ず外出する際は、気象情報を確認し、少しでも危険を感じる場所には近づかないようにしましょう。
- ・特に堤防・海辺・河川での見物は事故のもとです。

川に近づかない

- ・上流の豪雨により、川が急に増水する危険があります。川などに近づかないようにしましょう。
- ・避難の情報が発令されたときは、速やかに近くの建物の3階以上へ避難しましょう。

車の運転は控える

- ・視界が悪く、ハンドル操作やブレーキがきかなくなることもありますので、運転は控えましょう。
- ・アンダーパスなど道路冠水のおそれがある場所は通らないようにしましょう。

周辺の浸水状況に注意

- ・浸水してきたら、近くの建物の3階以上へ避難しましょう。
- ・なるべく階段を使って上の階へ行きましょう。
- ・水路・側溝は水量が増して危険ですので、近づかないようにしましょう。



地震が起こったとき

地震の揺れの程度で油断しない

- ・揺れが小さくても津波が起こることがあります。
- ・海岸や河川敷などでは、小さい揺れであってもまずは避難しましょう。
- ・津波が来る前には、引き波があるといわれることがあります。前触れなく津波が来ることもあります。

「より早く」、「より高く」逃げましょう

- ・津波は、沿岸部で陸上競技の短距離選手並みのスピードがあります。
- ・くるぶし程度の波でも力が大きく、立っていることができません。
- ・すでに浸水が始まってしまった場合は一刻を争います。「遠く」よりも「高い」場所に避難しましょう。近くの津波避難ビルなどの3階以上に逃げ込むようにしましょう。

避難情報が解除されるまでは海岸に近づかない

- ・津波は繰り返し襲ってきます。
- ・避難情報が解除されるまで河川や海岸に近づかないようにしましょう。



避難行動で気をつけること

安全に避難する

動きやすく安全な格好で避難

- ・ヘルメットや防災頭巾などで頭を保護し、すべりにくい靴を履きましょう。裸足や長靴は危険です。
- ・荷物は最小限に、両手がふさがらないようにしましょう。



浸水している状況では近くの高い建物に避難

- ・既に浸水しているなかの避難は非常に危険です。
- ・まっ暗闇ですでに浸水している場合など、避難所へ行くのが困難な場合は、近くの3階以上の建物に一時避難しましょう。

深さに注意

- ・浸水時は50cm、津波は30cm以上の深さになると歩いて避難できなくなります。
- ・くるぶし程度の浸水でも、流れが激しい場合は歩行せず高いところで救援を待ちましょう。

足元に注意

- ・水面下にはふたの外れたマンホールや側溝などの危険な場所があります。
- ・長い棒などを杖代わりにして足元の安全を確認しながら歩きましょう。

協力し合って避難する

一人で行動しない

- ・隣近所に声をかけて集団で避難しましょう。
- ・はぐれないように体の一部をロープで結びとよいでしょう。

子どもや高齢者などへの配慮

- ・高齢者や病人、子どもなど、避難に支援が必要 な方の安全確保など、避難に協力しましょう。

避難に車はできるだけ使わない

- ・車で避難することはできるだけ控えましょう。
- ・避難する車で狭い道路が渋滞して、緊急車両が通れなかったり、津波にのみこまれて命を落とす危険があります。
- ・アンダーパスなどが浸水していると、立ち往生して脱出できなくなる可能性もあります。



地下や路面の低い場所での被災にご注意ください!

地下街・地下駅・地下室

大雨時、道路にあふれた水が地下街や地下駅、地下室を襲うことがあります。

地下にいるときは、安全と思い込まず、外で何が起きているのかを把握するようにしましょう。

階段を流れ落ちる水の勢いは強く、地上への避難は困難になりますので、地下への浸水が予想されるときには早めに避難しましょう。

また、出入口に設置した止水板を越えて浸水してくることがありますので、係員や従業員の指示に従って避難してください。



アンダーパス

鉄道の下など、路面が低くなっている部分は、水がたまる恐れがあります。

大雨の時には十分な注意を心がけてください。

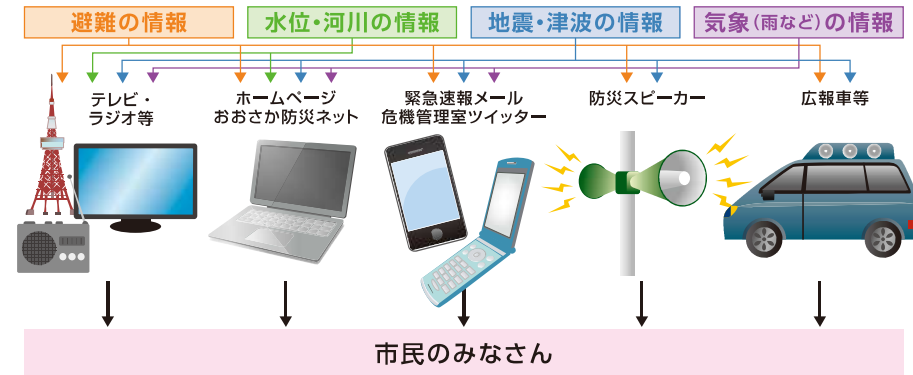


防災情報の伝わり方

防災情報(避難情報、水位・河川情報、地震・津波情報、気象情報)は、様々な方法で市民のみなさんにお伝えします。

しかし、時間帯や災害状況などによっては、防災情報が伝わりにくくなることもあります。

大雨が降っているときや、地震が起きたときは、自ら情報を入手するように心がけてください。



発表される防災情報と市民のみなさんをお願いしたい行動

気象(雨など)の情報			津波の情報		
発表内容	発表のめやす	お願いしたい行動	発表内容	発表のめやす	お願いしたい行動
大雨・洪水特別警報	台風や集中豪雨による数十年に一度の降雨量となる大雨で、重大な災害が起こる可能性が非常に高まっているとき	・ただちに命を守る行動をとってください	大津波警報(特別警報)	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合	・浸水想定区域外へ避難してください ・区域外への避難が困難な場合や時間的余裕がない場合は、もよりの津波(水害時)避難ビルや鉄筋コンクリート造など堅固な建物(昭和56年以降の新耐震基準による建物)の3階以上に、安全を確認の上、避難してください
大雨・洪水警報	大雨や長雨による重大な災害が発生するおそれがあるとき	・不安を感じたら自主避難してください ・避難情報に注意してください	津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合	
大雨・洪水注意報	大雨や長雨による災害が発生するおそれがあるとき	・非常持出品を確認してください ・気象情報に注意してください ・土のうの設置や貴重品の移動などをしてください	津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合	・非常持出品を確認してください ・津波情報に注意してください

避難の情報		
発令内容	発令のめやす	お願いしたい行動
避難指示	人的被害の発生する危険性が非常に高い状況 人的被害の発生した状況	・マンション等にお住まいの方は浸水のおそれのない階*に避難してください ・一戸建て等にお住まいの方は、もよりの避難所や津波(水害時)避難ビルへ避難してください
避難勧告	人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況	・避難所へ行くのが困難な場合は近くの3階以上の建物に一時避難してください
避難準備情報	人的被害の発生する可能性が高まった状況	・避難行動に時間がかかる方は、浸水のおそれのない階*もしくはもよりの避難所へ避難を開始してください ・それ以外の方は、家族等との連絡、非常持出品の準備等、避難準備を開始してください

※浸水のおそれのない階は、あらかじめ水害ハザードマップの想定でご確認ください。(ただし、浸水の深さはシミュレーションに基づいており、実際の状況と異なることがあります。)

緊急事態の種類とサイレン(警報音)パターン

緊急事態の種類	サイレン(警報音)パターン	…サイレン
大津波警報	3秒吹鳴 2秒休止 3秒吹鳴 2秒休止 3秒吹鳴	
津波警報	5秒吹鳴 6秒休止 5秒吹鳴	
避難指示	15秒吹鳴 10秒休止 15秒吹鳴 10秒休止 15秒吹鳴	
避難勧告	10秒吹鳴 10秒休止 10秒吹鳴 10秒休止 10秒吹鳴	
緊急地震速報(震度5弱以上)※1	緊急地震速報チャイム音	

大阪市
危機管理室
ホームページ
防災行政無線の
サイレンパターン



※1 緊急地震速報は、震源が近く、揺れの到達時間が早いと予測される場合、揺れてから放送することになるため、放送しない場合があります。

非常持出品チェックリスト

基本品目 32点

(大人2人分の目安) *は救急袋の中に入れておく。

☐ 非常持ち出し袋	1個	☐ 包帯*	2巻
☐ 缶入り乾パン(110g)	2個	☐ 三角巾*	2枚
☐ 飲料水(500mlペットボトル)	6本	☐ マスク*	2枚
☐ 懐中電灯	2個	☐ 常備薬・持病薬など*	適当量
☐ ローソク	2本	☐ レジャーシート	1枚
☐ ライター	2個	☐ サバイバルブランケット	2枚
☐ 携帯ラジオ	1台	☐ 簡易トイレ	2枚～
☐ 十徳ナイフ	1本	☐ タオル	4枚～
☐ 軍手・手袋	2組	☐ ポリ袋	10枚
☐ ロープ 5m～	1本	☐ トイレットペーパー	1ロール
☐ 救急袋	1枚	☐ ウエットティッシュ	2個
☐ 毛抜き*	1本	☐ 現金(公衆電話用の小銭)	約50枚
☐ 消毒液*	1本	☐ ガムテープ(布製)	1個
☐ 脱脂綿*	適当量	☐ 油性マジック(太)	1本
☐ ガーゼ(滅菌)*	2枚	☐ 筆記用具	1セット
☐ ばんそうこう*	10枚～	☐ 生理用品	

電話が使えない時は

大規模な災害時には、一般電話や携帯電話の通話が制限されます。

NTTの災害用伝言ダイヤルや携帯電話の災害伝言板を活用して、家族や友人に連絡しましょう。

- ①災害伝言ダイヤル171
NTT西日本(一般電話:音声)
「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言を登録・再生できます。
- ②災害伝言板
安否情報を登録すると、家族や友人が携帯電話やパソコンから確認できます。詳しくは、携帯電話会社やNTT西日本のホームページなどをご覧ください。



災害時の連絡先

港区役所	6576-9881	電気(関西電力九条営業所)	0800-777-8011
港区保健福祉センター	6576-9882	ガスもれ(大阪ガス)	0120-0-19424
警察署	110		113
消防署	119	電話の故障(NTT)	携帯電話・PHSからは0120-444113
下水道(市岡管路管理センター)	6576-0700		
水道(お客さまセンター)	6458-1132	災害要伝言ダイヤル(NTT)	171
道路(建設局市岡工務所)	6576-0761		

もしもの時に備えて

地震や台風を止めることはできません。被害を最小限に抑えるため、日頃からもよりの避難所や安全な避難経路の確認、地域の防災訓練への参加をしましょう。

